第６４回全道へき地教育研究大会宗谷大会　　第１分科会研究協議記録

Ｈ２６．９．２６　記録者　猿払村立知来別小学校　吉田真奈美

○４年生　国語

・授業者反省

教師が教えたいことと学びたいことのバランスをとるのが難しい。

８名の中での学力差が大きい。様々な背景がある。一人一人に個別の支援が必要。

当初は教師の教えたいことが前面にすごく出ていたが、実態を踏まえると興味を持って取り組むことが難しかった。

本単元は「要約する力」に絞って学習を進めた。

高学年・中学校を見据えて授業づくりを行った。

子供たちは意欲を持って学習に取り組んでいた。

実態は、発問の意図が取り組めない子、座っていられない子、飽きて折り紙で遊んでいる子がいる状態。子供たちはリーフレットづくりを見通して楽しみにしながら学習を進めることができたが、図工の延長として捉えがちであったため、要約を意識させながら学習してきた。まとめたり、要約する力は国語科だけでなく、社会科や、理科などでも実験などを通して力を育てていきたい。自己評価に取り組んできたが、なんで自己評価をするのかいまいちわかっていないため、これからも継続して続けていきたい。

・質疑

・研究協議

拓新中・藤倉Ｔ・・・自由交流について。人間関係が大きくかかわってくるが、今回は何も言わずに自由に拘留させたのはどのような意図があったのか。

応答・・・目立った人間関係のねじれはないが、保育所からの人間関係なので、子どもたちの中で固定されたものはある。今回は、自身のない部分を友達の話を聞いて補うことが目標。自分の意見に自信がもてることがねらいだったので、だれに聞いても、良いようにした。

拓新中、田中（？）Ｔ・・・普段の様子を聞いていたが今日は、学びあいの様子が自然に見えていた。今日の様子と普段の実態を詳しく教えてほしい。

応答・・・今回は国語科に関係する発言が多く、よかった。普段は関係ない雑談が多い。本筋に戻ることが難しいこともある（１０～１５分）なかなか集中できないこともある。場所を変えて新鮮さを出しながら授業ができたのだが、普段 45 分間座っていると飽きてしまって姿勢が崩れたりしがちである。時間内での工夫が必要。子供たちのなかでは、もっとできるようになりたい。学びたいという想いを持っている。それでもやっぱりよくわからない気持ちがせめぎ合っている。一問一答になりがちではあるが、まずは子どもの達成感を得られることに重点を置いて授業を行っている。

（？）中（すみません・聞き取れませんでした）

「深める」の部分で、前時までは、例文があったが、本時はなかった。大事な言葉はすべて盛り込まれていて驚いた。前時まではどのような取り組みをしてきたのか。

応答・・・子どもが書いているのはすべて教師が話したことである。前時までは、担任の言葉でまとめてきた。担任の言葉で例示することで、子どもたちが言葉としてイメージが作れていたと思う。

しかし、最後に自分で作ろう。となったときに、困ってしまう子がいたため、人数でも個別の関わりやアプローチの仕方に工夫が必要だと思った。

鬼小　長畑Ｔ
１回目の要約の様子を教えてほしい。
応答
１回目は穴埋め形式でキーワードを当てはめていくと文になる。ワークシートを行った。良い部分を確認しながら、書き方の学習をした。２時間目終わりにはなんとなく、要約文がかけそうな気がするという言葉がでた。こどもたちにイメージとして、書き方が伝わっていたようだ。

小島Ｔ（？）
指導の流れが切れてしまうことがある。子供たちだけで進めることができるような授業の流れができているかと思う。単式から複式に流れてもいいように学校として、どこまで行っていけば押さえているのか。
→複式にぶつかった場合、わたり、ずらしが出てきたときに、授業を進めるスキルとして、ペア学習・グループ学習・などの授業スキルを単式のうちから身につけさせていきたい。
（(補足)）ペアでできること・３人でできることを体系づくりを押さえる必要がある。どういう順序でやるのかを学校全体で確認したい。
作業に差がある場合は（早く終わった子の対応）
→待つ時間の活用。現段階ではあまり差は生じていない。出てきた場合は、吹き出しを使ったノートづくりの充実ができるようにしたい。自分の頑張ったことや、できたことを吹き出し書かせたい。自分の学びを振り返る時間にしたい。

鬼志別小学校・越智Ｔ
テンポが良くて素晴らしかった。板書にあるものを書かなかった場合、書きたい子がいるときにどういう時間の使い方をしたらよいのか教えてほしい。
→国語科として正しいかはわからないが、算数の学習では最後の５分間でわかればいいというとらえ方がある。今回の学習では、途中で不十分さに気づくことができたら、最後の要約文の時点で修正して完成できたら良いと考えていた。違うワークシート形式では修正の時間も必要かと思うが
・どうしても書きたい・板書通りに書きたい児童がいる場合の対応について。
→大規模校であれば、ストップをかけると思うが、小規模の学習形態では、聞くときは聞くという姿勢を身につけさせていきたい。

意見・アドバイス
藤倉Ｔ・・・ホワイトボードを使って、子どもを集めて距離感を近く話を聞かせた場面が大切だと感じた。
教師が足りないところを補いながら対話していくことおもしろくて、たくみだった。
相談することの価値・集めることの価値まで話していけるとよい。

感想・その他
拓新中・松尾
全体的にシンプルでやることもわかりやすかった。ペア学習のときに自分の意見に自信が持てるように話し合って。という指示がよかった。子供の意識にもつながるのでいいと思った。言語表現・表の中身をうめる場面で、ねらいと結論の整合性をもっとふかめるために、子供の主語が抜けたり、そのために（接続）がなかったりする場合があるので、表にまとめる際に接続詞を入れてあげるとよかった。普段から的確な文章を示してあげるとよいかとおもう。

新ひだか町　やまて小

単式であって、複式の視点が必要。視点が明確であったことが大切。自力学習が終わった場合は、差を埋めるために配慮が足りなかった。早く終わったは何をするのかという、指示を出しておくとよい。できる子には今段階からはじめておきたい。課題を二つ与えて、AとBにわけて複式を体験させる学習をしてもよいかと思う。

拓新中・田中T

早くできた子の対応について。価値観を広げる為ために困っている子に教えあえるような活動をとるとよい。わからない子が先生ばかりを頼るのではなく、友達と学びを深めていけるような活動を取り組めるとよいのではないか。友達どうしで教えあうことによって学習スキルが高まっていくのではないかと思う。中学校でも活きるので、高めあって成長していってほしい。

・助言者の先生から（五十嵐校長先生）

〔仮説１〕

教室が整理されて入れ、学習の様子も見ることができ、学習環境が整備されていた。

教師と子供の関係が良かった。

学習が始まったら、浜スタ6か条が浸透してきている様子が伝わってきた。普段の学級経営の賜物。

手立てAについて・・・授業の流れ・要約文の書き方が子供たちが見通しを持って授業に取り組めていた。

視覚的に訴える教材があり、よかったが、もっと可視化できるように掲示物の工夫をするともっとよくなる。

要約文を作る作業・・ペアやグループ活動が向いていたのか。一人一人の感性や感覚・経験でまとめていくものだから、相談しながら作業するのが難しいのでは？自分でまとめてから、ペアやグループで話し合ったほうがよかったのではないか。

〔仮説2〕

単元の最後（リーフレットづくり）の目的がはっきりしていたので、見通しを持って学習を進めることができていた。

リーフレットそのものが、子どもたちにどこまでイメージ出来ていたのかわかっていたのかが疑問（なんのために・だれに向けて・どんな内容で）学習の頭で、もう少し書くことの理由をもう少し話しておくと、子ども達が意識しながら学習に取り組めたのではないか。

〔仮説3〕

継続的な自己評価カードはとても友好的。継続することによって先生も子どもたちも慣れていくことができる。

河野先生

１、学級の雰囲気良かった。今後の対応として

国語の観点から・・・語彙を増やしてあげるチャンスはなかったか。教科書では２００匹ほどとかいてあることを、子どもたちが「たくさん」と表現していた。

大事なこと・キーワードを見つけましょう。大事なことって何・・・？大事なことは感覚がそれぞれ違うから見つけずらい。表を作ったので、「大事なことを見つけなさい」→「余分なものを消しなさい」

子どものプライド・・・２種類のプリント（難しいカードを選んだ？）ときに変えたらどうか。簡単な方と、難しい方と両面印刷したらどうか。プライドを傷つけさせずに子供が自分で選択できる。

要約文・・・読みを深めること・書くことの評価基準は必要なかったかと思う。

自己評価カードは意義がある。継続していくことでできるようになっていくと思う。

○５・６年生国語

・授業者反省

実態について・・・６年生・今年で２年目。スタートは授業を成立させること。人間関係の問題を抱えている

ことが多かった。まず低位の子を上げることから始めた。最近は低位の子も上位の子も比較的自信を身に着けてきた。長い文章に対する抵抗感が大きい。通読させると最後まで読めない児童も多かった。必要な部分だけをカットして行うことで気持ちよく文章と向き合えるようになった。
普段よりも増して頑張って取り組んだ。文章に対して苦手意識の強い児童２人。二人が自力で最低限取り組めて、最後までできることが目的。
６年生・・・最後まで自力で一定の中身が読めて、最後までワークシートに書き込むことができた。
５年生・・・線も引けて、自分の意見を短冊に書いてみんなの前で張ることができた。発言もあった。
最後まで学習に参加することができた。ただ、内容的にはやらなくてはいけないことが多く、課題も多い。
進め方・内容に対しても課題がある。

・質疑
ニセコ町近藤小学校　さいとうＴ
子どもの意欲を高めながら進めていた。言葉がけがとても上手い。安心して学習を進めていくことができる。

短冊をツールとして使っていたのはいつからか。
指導計画の２時間目から使用。はじめは、線は引けるが、なぜ線を引いたのか説明できないような段階からスタートし、２回目からはできるようになった。できれば間違いたくない児童が多い中、たくさん出してもいいんだと思えるようになった。

マジックや色の使い方に意味はあるのか。
とくに意味はない。

どのグループがどの短冊を出したのかわかるのか。
今回は聞きながらできたが、（自己主張する場ができてよかった）が、だれが書いたかわかるようにしておくといい。（短冊の色やマジックの色で工夫する。）
１人だけしかいない学年に比べるとたくさん話し合い・練りあいができていいなと思った。

意見・アドバイス
小島Ｔ
指示が短く温かみがあり、子どもの学習の時間が多くとることができて良かった。細かく手厚く支援することができていた。
６年生が中学校にあがって、複式ではなくなったとき、ワークシートではなく、ノート学習に移った時のために、ノート指導をどのように行っているのか。
応答
普段はあまりワークシートを用いていない。高学年はどんな形で送り出すかと考えた時に、自分なりのノートが作れるということを重点に考えている。
社会で行うことが多い。社会科のノートづくりをメインとして・家庭学習もノート中心。アドバイスを書き込んだり例示したりして書き込んでいる。

山手小学校　堤Ｔ
複式の観点から
同時間接の時間が多かった。個別に対応することができていた。二つの学年を客観的にみることが大切。次の直接指導にどのように向かうかを考えることが大切。今回は可能であったのではないか。間接指導のときの立ち位置。関わらなくとも見る。
６年生が終わらなかった・・・子供たちが自分で課題の追及できるように前時の段階で進めておいたらよいのではないか。同時に始めることもできる。入り込む場面と客観視できる場面を作る。

拓進中　藤倉Ｔ
同時間接・・・単式でも一斉授業だけではつらい部分がある。ずらしだけでは対処しきれない部分がある。同時に課題を与えて動かしておいて、教師に余裕ができる時間を作ってはどうか。子どもたちの話し合っている（自力解決の道筋）様子を見ることができる工夫があると、もっと個別にも対応する時間が作れるのではないか。

助言者　河野先生
研究仮説に基づき
〔仮説1〕
浜スタまだまだと言っていたが、じゃあどうするか。形以外の指導の仕方はないか（ピン・ペタ・グー）
鉛筆の持ち方が悪い子
→姿勢も悪い（覗き込んで書いている）言っていることが通じない場合、理由を考える。
なぜできないのか
→どうしたらできるようになるのか。理由を考える。
話を聞かせたい
→集中して聞ける話を用意する。
学習準備
→できない場合。教師の責任ではないか？時間通りに終わっているか？
学び方
→丁寧に記録を掲示している。←ノート指導の妨げになっていることがある。中学校はない。
使い方。ノートに書いているのに掲示もするのは意味がない。高学年「わぁ！？」で終わったことがすごく良かった。この後、子どもたちから出るかもしれない。強引に言葉を持ってくる必要はない。
見通しを持てるように、ヒントカードの工夫をする。ワークシート2種類用意していた。実態をよく踏まえて手立てを投じていた。
『なんのために』を大切に。なんのために作ったのか。なんのために読んだのか。1時間でどんな力がついたのか。
〔仮説3〕自己評価を積み重ねていくことが必要。自己評価も教師側の客観的なアドバイスが必要。（甘い子は甘い・厳しい子は厳しい）

五十嵐校長先生
先生方がみんなで実態を把握して、よりよい学校生活を送ることができるよう、一丸となって取り組んでいる様子が伝わってきた。中学校からも意見がたくさん出ていて良かった。来年の本研で、子供たちが変容している姿をぜひ見せてほしい。